

The 135th anniversary of birth of

衝撃の日本画

川端龍子展

生誕 百三十五年 記念

スケール、発想、生きざま、すべて規格外！



《綠葉散華》1945年 249.0×188.0cm 大田区立龍子記念館

- ◆主催 広島県立美術館 広島テレビ イヌミテクノ 中国新聞社
- ◆後援 中国放送 広島ホームテレビ テレビ新広島 広島エフエム放送 FMちやーりー 76.6MHz エフエムぶくやま 尾道エフエム放送 FMおっぴか 76.1MHz FM東広島 99.7MHz
- ◆特別協力 大田区立龍子記念館
- ◆企画協力 アートワン
- ◆協賛 大田鋼管



《草の実》1931年 177.2x382.7cm 大田区立龍子記念館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22 Tel.082-221-6246 Fax.082-223-1444

2020 (令和2) 4/2 (木 thu.) ~ 5/31 (日 sun.)

※月曜日休館 (5月4日は開館) 開館時間 9:00-17:00 (金曜日は20:00まで開館) ※入場は閉館の30分前まで ※4月2日は10:00開場

広島県立美術館 Hiroshima Prefectural Art Museum http://www.hpam.jp/

The 135th anniversary of birth of

衝撃の日本画

川端龍子展

生誕 百三十五年 記念



《龍巻》1933年 293.0 x 355.0cm 大田区立龍子記念館

◆入館料
入館料 一般1,300円 (1,100円)
高・大学生1,000円 (800円)
小・中学生600円 (400円)
※(内は前売り・20名以上の団体料金)

◆身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者(介助者1名まで)の当日料金は半額です。手帳をご提示ください。

◆学生券をお求め、ご入場の際は、学生証のご提示をお願いします。

◆前売券販売所 広島県立美術館
セブンチケット(セブン・コード: 081-735)
ローソンチケット(Lコード: 62665)
チケットぴあ(Pコード: 685-107)
イーファス
広島市・呉市内の主なプレイガイド
画廊・画材店 ゆめタウン広島
中国新聞社読者広報部
中国新聞各販売所(取り寄せ)など

ワンコイン 100円 縮景園

◆県美×現美×ひろ美 相互割引
広島市現代美術館、ひろしま美術館、いずれかの特別展チケット(半券可)を受付にて提示いただくと、本展当日料金がより100円割引。詳しくは各館にお問い合わせください。
※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

生誕 百三十五年 記念



- JR広島駅より約11km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥線「龍景園前」下車約20m
- ひろしまのいぶる〜ぶ(広島駅新幹線口のりば発着、市内循環バス)「県立美術館前」下車約80m

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22
Tel.082-221-6246 Fax.082-223-1444

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
http://www.hpam.jp/

異端にして巨匠、

❖ 「昭和の狩野永徳」と評され、横山大観・川合玉堂とともに「近代日本画の3巨匠」の一人に数えられる日本画家・川端龍子(かわばた・りゅうし / 1885-1966)。

龍子は、和歌山市に生まれ、上京して若手の洋画家・挿絵画家として活動します。しかし、単身渡米した現地で日本の古美術にふれたことを機に、日本画に転向。翌年、再興日本美術院展において面壇デビューを果たします。「一にも川端、二にも龍子」と言われる程、横山大観の信頼を得て、院展のホープとして将来を嘱望されました。

しかし、日本画を独学で学んだ龍子のあまりに大胆で豪放な表現は、繊細巧緻な画風が主流であった当時の院展内で軋轢を生み、美術院を脱退。翌年、「健剛なる芸術」の創造を目指した日本画団体・青龍社を旗揚げします。

それまでの日本画にはなかった規格外の大作を次々と発表し、センセーションを巻き起こしました。

戦後は、在野の巨匠として青龍社で後進を育てながら、精力的に制作を続け、1959(昭和34)年には文化勲章を受章しました。

川端龍子の生誕135年を記念した本展では、大田区立龍子記念館による全面協力のもと、50年以上にわたった龍子の画業全体を回顧します。



45歳の川端龍子



《新樹の曲》1933年、各181.0×399.6cm、東京国立近代美術館



《阿修羅の流れ(奥入瀬)》1966年、245.4×484.8cm、大田区立龍子記念館



《唐獅子牡丹》1935年-1945年、122.5×140.0cm、水野美術館

衝撃のスケール！



院展に出品した大作を批評家から「会場芸術」と批判された龍子。しかし、その言葉を逆手に、会場芸術こそ「大衆のための芸術」、つまり新しい時代の芸術であると主張し、青龍社を立ち上げ、次々とセンセーショナルな大作を発表。そのスケール、圧巻！

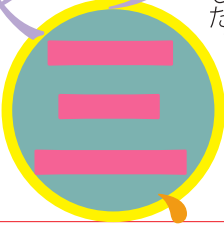
《龍子垣》1961年、242.0×729.5cm、大田区立龍子記念館

発想の衝撃



龍子の大胆な発想は日本画の伝統的な型を打ち破り続けました。一見すると落下しているかのような真上から描かれた雁やスケルトンの戦闘機、爆弾で破裂する野菜…！

衝撃の生き様！



洋画家、挿絵画家、そして日本画家として縦横に活躍した龍子。「在野の巨匠」として生きつつ、文化勲章を受章。81歳で亡くなるまで、絵に一生をささげた人生でした。

正統派！

反逆者にして

2. ワークショップ

「龍子の技法体験ワークショップ—制作と鑑賞」
作品《草の実》に使われている金泥技法を実際に描くことを通じて、龍子の考えた西洋と日本の違いについて学びます。
日時:4月18日(土) 13:30~15:30 講師:森山知己氏(日本画家・倉敷芸術科学大学教授)
会場:地階講堂(定員10名:中学生以上)
※要事前申込 [Tel.082-221-6246(当館) 4月4日締切] / 参加費 2,000円

1. 記念講演会 (共催:広島県立美術館友の会)

「会場芸術—川端龍子の魅力」
日時:4月11日(土) 13:30~15:00
講師:木村拓也(大田区立龍子記念館主任学芸員)
会場:地階講堂(先着順) ※聴講無料/事前申込不要

3. 美術講座

「川端龍子—衝撃の日本画」
日時:5月9日(土) 13:30~15:00
講師:神内有理(当館学芸員)
会場:地階講堂(先着順) ※聴講無料/事前申込不要

4. ギャラリートーク

日時:4月10日(金)、24日(金)、5月8日(金)、22日(金)
各日11:00~
講師:当館学芸員
会場:3階企画展示室 ※要入館券/事前申込不要
会場入口にお集まりください。

5. 対話型鑑賞会

学芸員と自由に対話しながら、楽しく鑑賞を深めます。
日時:4月25日(土) 15:00~(1時間程度)
ナビゲーター:当館学芸員 会場:3階企画展示室
※要入館券/事前申込不要
会場入口にお集まりください。

6. 森本ケンタ×我龍

「衝撃のロビーコンサート」
日時:4月5日(日) 12:00~
演奏者:森本ケンタ(ギター)×我龍(太鼓ユニット)
会場:1階ロビー ※鑑賞無料、事前申込不要



7. 写真撮影コーナー

展示室内では、一部作品の写真撮影が可能です。カメラをお持ちください。

8. 関連展示

春の所蔵作品展(当館2階展示室 4月23日~7月19日)では、青龍社で活動した広島出身の日本画家・丸木位里、佐々木邦彦の作品を紹介。特別展チケットの提示にて無料でご観覧いただけます。

関連イベント